

# 中央執行委員長あいさつ(要旨)

## 仲間と共に「安全・健康・ゆとり」を守るため、組織強化・拡大を実現しよう！

中央執行委員長 佐藤英樹

### 組織強化・拡大のために

#### 議論を深めていく

JR東労組の最大の課題は、「組織強化・拡大」です。

これまで18春闘や21春闘などで総括を行ってきたが、残念ながら現在もJR東労組を脱退する理由の一つに「18春闘からJR東労組は変わっていないのではないか」または「施策が実施されることに対する将来への不安」があります。そういった離脱者の言葉には、どのような意味が含まれているのかということをお話ししたいと思います。

### 現実から目を背けることなく

#### 課題克服をめざし奮闘しよう

身の言葉で組合員や離脱者の皆さんと議論を深めることはできないのではないかと思います。

私たちは、議事録確認における内容などを組合員と不断に一致させるということが重要です。しかし、中央本部も含めて肝に銘じなければならぬのは、常に「現実」があるということです。21春闘や期末手当のたたかいで多くの仲間が口にした「諦め感や仕方なさ」を克服すること、そう容易くありません。常に「組合員・離脱者がどの様に感じているのか」各地方本部・支部・分会など、その場における現実を掴み、そこを出発点にしながら、一つひとつ議論を積み重ねて課題を乗り越えていかなければ、「諦め感や仕方なさ」などは突破できないと考えています。

### JR総連春闘スローガンのもと、22春闘をたたかおう

1月28日に開催されたJR総連「第44回定期中央委員会」では、鉄道5単組および5連協の平均基準内賃金をベースに賃金引き上げ2%程度の連合方針に基づいて2%6000円要求を決定しました。JR東労組は、今定期中央委員会において、JR総連方針に基づき「ベア一律6000円」を要求します。また、定期昇給の完全実施、21春闘における「定期昇給」カットの課題解決など、具体的に申し入れを行うと共に総合労働条件改善の要求実現をめざします。

JR総連春闘スローガンのもと、JR東労組として21春闘敗北や期末手当におけるたたかいを教訓化し、JR総連に加盟する各単組と固く連携してたたかっています。経団連・十倉会長は、「天然資源に乏しい我が国では、『ヒト』が最も重要な経営資源、企業にとって特に重要な価値協創によって、『成長』を実現し、その成果を適切に『分配』する」と述べています。岸田首相が述べる成長と分配は、基本的に経団連と軌を一にしているものであり、人への投資をしながら経済を発展させるためには、賃上げというより、総額人件費として、賃金制度や評価制度、退職制度見直しを展望しながら、労使議論を積み重ねることを求めています。

また、経労委報告では、連合方針にも触れ、2022春季労使交渉は、企業労使で自社の置かれている状況を共有した上で、一律ではなく、個々の企業に適した対応を検討することが現実的であり、様々な事項について広く議論する場であることを世の中へ周知していくために「春季生活『闘争』ではなく、春季労使『交渉・協議』」として発信していくことが望まれるとした経営側の基本スタンスを示しています。このような先駆けが、トヨタ自動車と全トヨタ労連の労使関係ではないでしょうか。従って、22春闘は、春闘のたたかいの灯を消

### 「安全・健康・ゆとり」を守り、未来を切り拓こう

赤字である以上、黒字を目指すということとは当然のことだと思いますが、現実に向けて、組織的な視点で議論を深めなければなりません。

「組織の再編」では、何が目指されているのか。それは「稼働」のためにマーケティング部の発足や、現場への権限移譲だけではなく、社員の「稼働」というマインドを高めることにあるのではないのでしょうか。組織の再編は、社員の更なる意識変革であり、「変革2027」における一つの到達点だと感じます。経団連は、健康確保を前提に労働時間規制改革を強く要望しているというのを見れば、「柔軟な働き方と組織の再編」における私たちのポイントは、「安全と労働時間管理」ではないかと考えています。業務の融合で乗務員勤務と渉外、更には副業などが含まれてくると、労働時間を自己管理することとは、今後、難しくなるのではないのでしょうか。

### 安心して暮らせる社会をめざそう

自民党は、「憲法改正により自衛隊をきちんと位置づけ、『自衛隊違憲論』を解消すべき」として改憲議論を進めようとしています。読売新聞では、「日本を取り巻く安全保障環境はこれまでにない速度で悪化している。その現実を直視し、効率的に防衛力を整備していかなければならない」と述べています。1972年5月15日に沖縄の施政権がアメリカから日本に返還されて50年が経過します。しかし、半世紀を超えても出撃・防衛拠点として在日米軍基地の7割以上が沖縄に集中する現実は今もなお、変わっていません。憲法9条の理念を捻じ曲げさせることなく、連携する仲間の皆さんとの連携を強化し、改憲にNO!と意思表示するつもりをしっかりと出さなければなりません。

## 委員の主な発言

### 春闘のたたかいについて

▼22春闘勝利に向けて、赤字の責任を現場と社員に「定期昇給カット」として押し付けることは断固許さない。職場からたたかいはつくり出す▼21春闘を敗北と総括し、会社への怒りとJR東労組への価値観を一致させ、要求実現に向けて職場全体でたたかいはつくり出していく▼定期昇給カットには納得感がないという

か怒りを感じた。施策を担うのは私たちだ。低相場の社内世論形成を阻止してたたかいはつくり出していく▼18春闘からの課題である方針を待つ姿勢ではなく、自分で運動をつくり出していく議論を深めてきた。21春闘を総括し、最後まで全組合員でたたかいは押し進めていく組織をつくり出していく。

### 組織強化・拡大に向けて

▼なぜ組織拡大が重要なのかということ議論してきた。一人ではなく、組織全体で関わりをつくり出し、拡大が実現した際には組織全体で守っていく。横の繋がりが希薄となり、自分さえよければという人が増えている。ヒューマンズムの精神が重要だ▼「自分にとってのJR東労組」を明確にすることが重要であり、

そのことを語る組合員を増やしていくことが必要だ。JR東労組として35年積み上げてきた労働協約は財産だ▼21春闘以降、未加入者への呼びかけも意識してきた。分裂前は、いつも声を掛けやすい人しか声を掛けず、同じ人はかりが参加していた。そのことを改善していかなければならないという意見をもちいた。

JR東労組に対して変化を求めているということだ。現場の仲間の本音を掴み、負託にこたえられる組織になっていかなければならない▼「組合員の現実を掴んでいるのか。一致できているのか」と先輩からの指摘を受けて分会運動を捉え直すことができた。LINEでのやり取りだけでなく直接声を掛けることに拘っ

#### 発言した委員(順不同・敬称略)

其田洋輔 (盛岡地本)	染矢和哉 (横浜地本)
島山 翔 (秋田地本)	中里曜祥 (八王子地本)
大山貴聡 (仙台地本)	鶴野経洋 (大宮地本)
吉田浩美 (水戸地本)	清水崇之 (新潟地本)
竹内 靖 (千葉地本)	曲尾優一郎 (長野地本)
黒田弘樹 (東京地本)	遠藤慶宣 (営業部会)